

肺がんの
治療

肺がんはどのように治療するのですか？

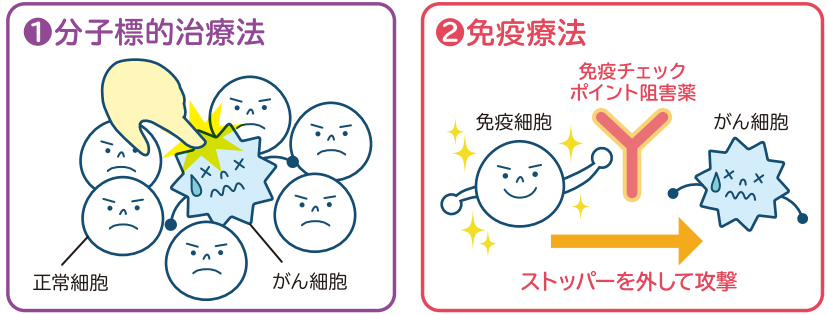
がんのタイプや遺伝子情報、転移の状況、さらに患者さんの健康状態や人生観まで含めて**総合的に考えたうえで、治療方針を決定します。**

一般的に、手術で取り切れるだろうと判断されれば手術をお勧めしますが、手術が難しい場合は抗がん剤や放射線治療の中から最もふさわしい方法を選びます。**手術と抗がん剤、放射線治療を組み合わせることで治療効果を高める場合もあります。**



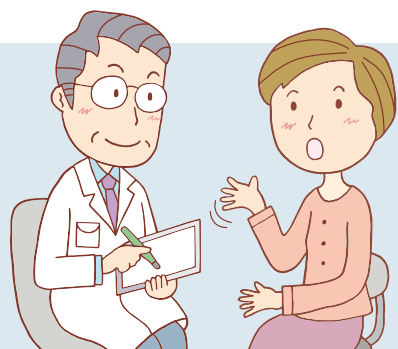
最近の抗がん剤治療は？

抗がん剤については、がん細胞を直接攻撃する細胞傷害性抗がん剤が古くから使用されてきました。最近では特定のがん遺伝子変化に対応して攻撃する**①分子標的薬**や、がん免疫を活性化させる**②免疫チェックポイント阻害薬**が多く開発されています。がんの特徴や患者さんの状態に合わせてこれらの抗がん剤を選んだり組み合わせたりして投与します。



さいごに

このような治療方法の進歩により、進行した肺がん患者さんでもがんと上手にお付き合いしながら長く生活できるようになりました。ただし、治療にはそれぞれ副作用や合併症があるので、どのような症状がでる可能性があるのか、症状がでたらどうしたらよいかを**主治医とあらかじめ確認しておくことが大切**です。



定期検診で早期発見・早期治療を！

最近の治療の進歩により、肺がんになっても治療を続けながら日常生活を送ることができる人が増えてきました。しかし**早期発見と早期治療が一番**なのは変わりありません。**症状がなくても定期的に健診を受けるようにしましょう。**



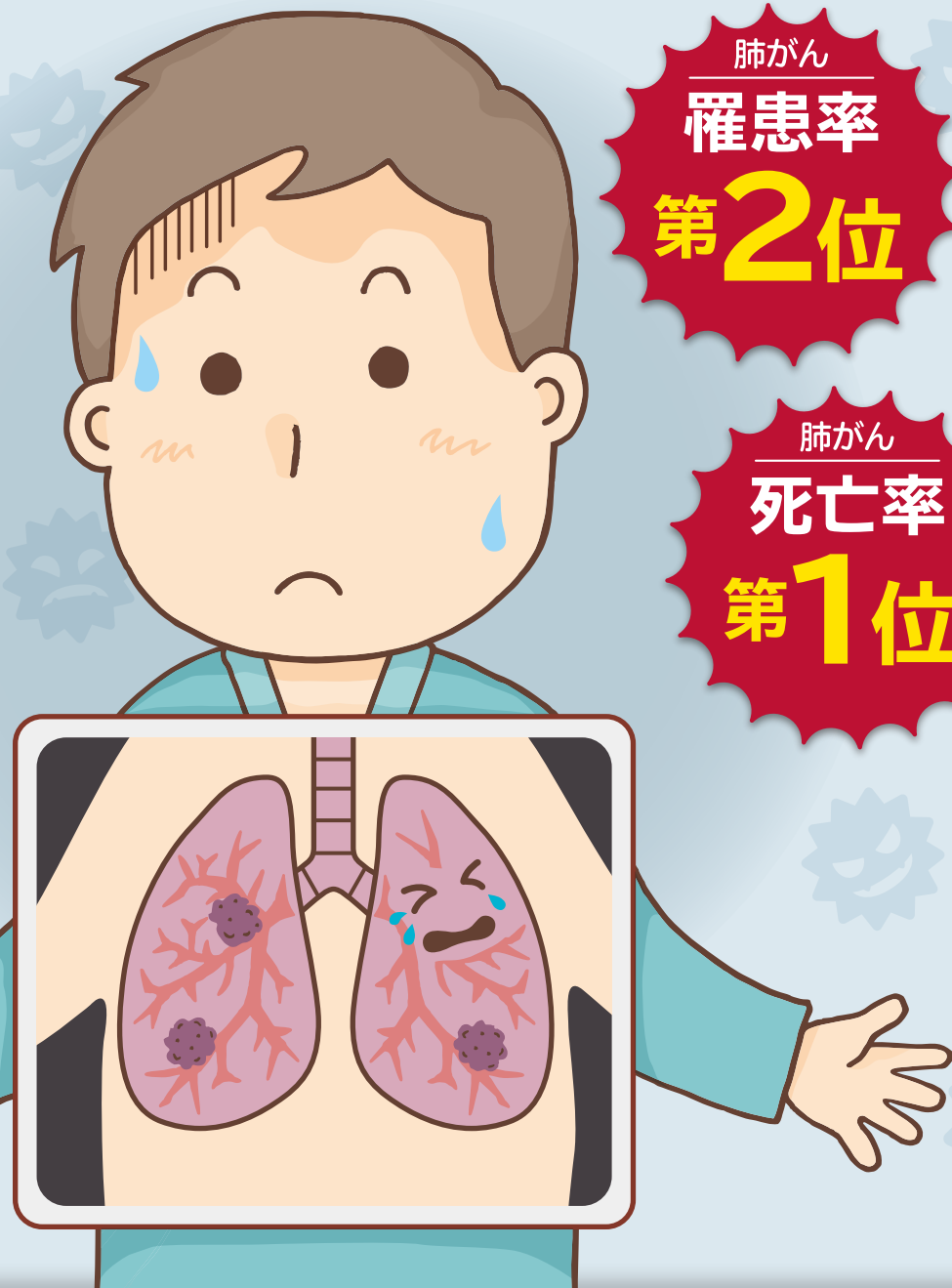
あなたは大丈夫？

肺がん



知っておきたい
 「肺がん」についての
基礎知識！

- ✓ 喫煙者。喫煙量、喫煙歴も長い。
- ✓ 周囲に喫煙者がいる。たばこの煙にさらされる時間が長い。
- ✓ 有害物質を取り扱う仕事をしている。
- ✓ 肺に病気がある。



肺がんは日本の最新がん統計において**罹患率（新たに診断されること）が第2位、死亡率が第1位**を占める重要な病気です。肺がんの原因は何でしょうか。そしてどのように治療するのでしょうか？ 今回のBe Wellはこの「肺がん」について説明します。

肺がんの原因

肺がんの原因はなんですか？

肺がんは ①喫煙との関連が大きく、自分でタバコを吸う場合はもちろん、②他人のタバコの煙を吸うことでも発症するリスクが高まります。③石綿(アスベスト)や④PM2.5の吸入も肺がんとの関連性が認められています。また、⑤慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎などの肺の病気があると肺がんが発症しやすくなります。



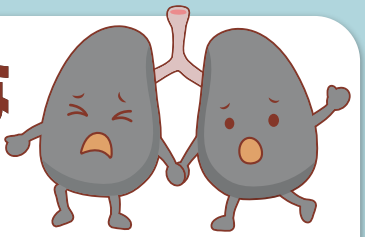
POINT

最近の研究により、肺の正常細胞をがん化させる遺伝子変化がいくつも見つかるようになりました。肺がん治療薬の開発につながる分野として注目されています。



肺がんの症状

肺がんになるとどのような症状があらわれますか？



肺がんの症状として①咳や痰、息切れがありますが、**風邪症状と紛らわしいため注意が必要です。**また、**肺がんは転移しやすい**ので、②脳に転移して意識障害やけいれんで見つかったり、③骨に転移して痛みで見つかったりすることもあります。一方、症状がなくても④健診などの胸部X線写真で偶然に**「異常な影」**として見つかることもあります。



① 咳・痰・息切れなど(風邪に似た症状)

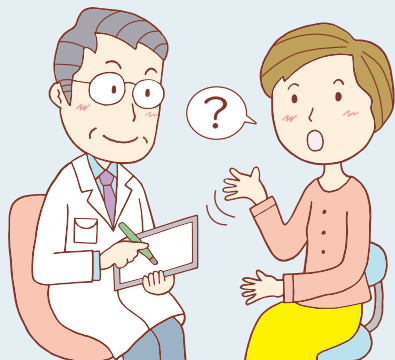


肺がんの検査

肺がんの検査にはどのようなものがありますか？

肺がんを確定するためにはがん細胞を見つける必要があります。CT検査で「影」の場所を確認し、気管支カメラを使って組織の一部をつまみ取り顕微鏡で調べることが一般的です。「がん」と確定した場合、組織標本を使ってがんのタイプや遺伝子変化の有無などを調べます。専門的で特殊な検査になるため、結果が出るまでに**10日前後かかります。**

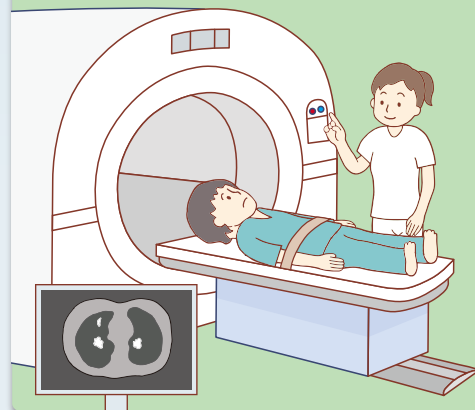
また、肺がんの進行度を確認するために転移の有無を調べます。脳転移には造影MRI検査が、リンパ節転移や骨転移にはPETCT検査が威力を発揮します。



このように、肺がんを確定してからも治療にたどり着くまでに検査が続き日数もかかります。患者さんにとっては不安がつる時期でもあります。**わからないこと、心配なことがあれば主治医に相談してください。**

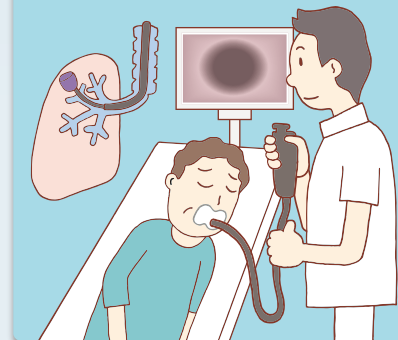
検診・人間ドック

- 胸部CT検査 「影」の場所を確認



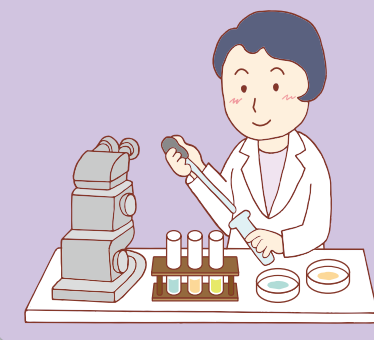
精密検査

- 気管支カメラ
組織の一部をつまみ取り顕微鏡で調べる



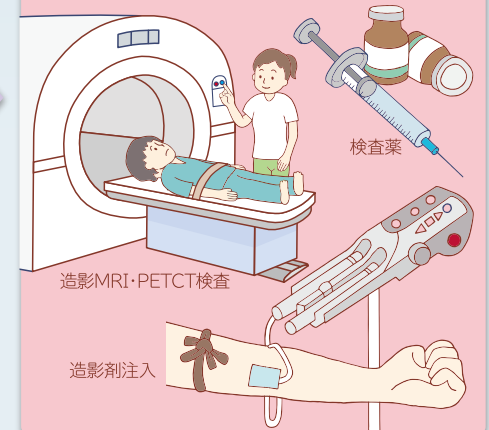
がん確定

- 細胞診 ●組織診
組織標本を使いがんのタイプや遺伝子変化の有無などを調べる



進行度・転移の確認

- 脳転移
●造影MRI検査
- リンパ節転移・骨転移
●PETCT検査



10日前後